

第 35 回

平成30年6月5日(火)

「とやま賞」贈呈式

贈呈式・受賞者スピーチ

「とやま賞」とは…

富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術、文化、芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体の活動を奨励するものです。



中島選考委員長による講評



石井理事長より賞状・目録贈呈



第35回「とやま賞」贈呈式は、去る6月5日に、富山国際会議場メインホールにて執り行われました。贈呈式では、受賞者5名に石井理事長から賞状及び奨励金目録が手渡されました。また、各受賞者に、これまでの経緯についてスピーチしていただきました。

この度、「とやま賞」を頂きましたこと大変光栄に思います。大学進学後は富山を離れての生活でありましたので、生まれ育った故郷である富山から頂く賞は格別の想いがございます。財団関係者の方々、また、これまでにご指導いただいた諸先生・諸先輩方に深く感謝申し上げます。

今回の受賞者

受賞者によるスピーチ

大学卒業後に医師としての研修生活を送っている中で、専門領域である循環器内科の中でも、特に若年性に発症する難病指定疾患の肺高血圧症患者に出会い、なんとかしたい、と強く感じました。この病気は、自分の研修医時代にはまだ治療法がほとんど開発されておらず、10代〜30代の若い世代の人が突然発症し、何度も心不全での入院を繰り返して、そのうちに不幸の転帰を辿る、という病気でした。当時は自分と同じ年頃の若者が通常の学生生活も青春もなく、人生の多くの時間を病院で入院生活を送って、という状況に、医師としての無力感に苛まれ、ただ、それでもなんとか少しでも原因を解明して新しい治療法を見つけない



片岡 雅晴 氏

「難病循環器疾患における病態解明と治療法開発による医療貢献」

慶應義塾大学医学部 循環器内科 講師

学術研究部門 医薬分野「疾患病態治療学」